

2011年末・年間一時金 闘争・妥結状況一覧

2011年12月23日現在

年間要求	回答・妥結額	前年度実績
城東自校	妥結 1,094,500	1,094,500
東部自校	妥結 1,094,500	1,094,500
北鉄自校	妥結 1,094,500	1,094,500
北中自校	妥結 1,094,500	1,094,500
羽昨自校	妥結 寸志	要求見合わせ
能中自校	交渉継続中(次回交渉12/26)	未解決
加南加賀自校	交渉継続中(次回交渉12/26)	未解決
芝寿し	妥結 年末5.25%~7.75%	年末5.00%~7.00% +3,000
林ベニヤ	妥結 533,000(2.4ヶ月)	325,000(1.5ヶ月)
門前サンケン	妥結 389,908(1.685ヶ月)	445,570(1.468ヶ月)
大同テクノ	妥結 342,071(1.811ヶ月)	295,974(1.536ヶ月)

年末要求	回答・妥結額	前年度実績
北陸冷蔵	交渉継続中(次回交渉年明け1/17)	117,500(0.584ヶ月)
市場冷蔵	妥結 234,000	200,000
魚市冷蔵	妥結 221,000(0.9880ヶ月)	226,000(1.0517ヶ月)
丸一石油	妥結 273,529(1.203ヶ月)	215,235(0.958ヶ月)
北国製紙	交渉継続中(次回交渉12/27)	寸志
北陸葬祭	妥結 105,000	100,000
金沢執行官室	交渉継続中(次回交渉年明け1/17)	444,000(2.0ヶ月+6万)
天狗支部	妥結 分会 89,000 コスモス53,821	分会 80,857 コスモス48,250
疎永昌堂	妥結 83,333	

※夏冬型年間一時金、労働条件要求、および単組は掲載していません。



2011年 12月24日 No. 905

全国一般石川地方労働組合 教宣部

金沢市駅西本町3-13-5 Tel. 076 (262) 0724

発行人 久田友恒

下がる賃金、悪化する貧困と格差拡大を許さず 年末(年間)一時金闘争を全力で闘い抜こう!

EJ諸国の相次ぐ金融不安、世界的な同時不況と超円高の下でリーマンショックをも上回る厳しい状況が続いています。不況の荒波は容赦なく中小零細企業に襲いかかり、東日本大震災

の影響も加わる中で二〇一一年秋年末闘争が開始されました。地本各職場では十一月五日、一斉に経営側に要求書を提出し闘いをスタートさせるとともに今尚、放射能

汚染が拡大し収束先の見えない東電福島原発事故に抗議しながら、脱原発の闘いにも積極的に取り組んできました。連合石川の集計(十二月十五日付)によれば、21

地本結成50年を祝う会・2012年団結旗開き

- ・新年1月7日(土) 17時
- ・労済会館3階ホール

地本の仲間の顔合わせです!
結成50年を祝い、来たる2012年をさらなる飛躍の年にするため、全職場より多数ご参加下さい!



地本結成50周年クラブゴルフ&バーベキュー大会(10/30 内蔵サイクリングターミナル)

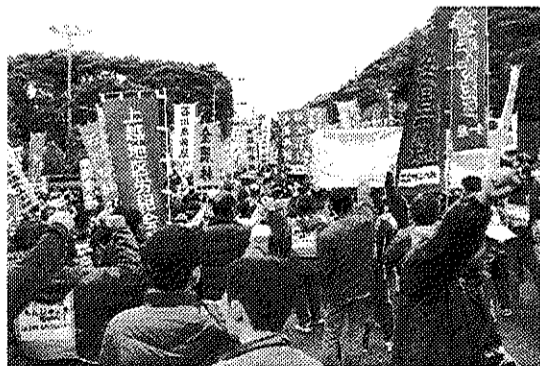
3組合中175組合が妥結し、夏冬型を含め加重平均で545,976円で、前年対比では金額で46,709円、率で0.186ヶ月上回っています。地本においては、自動車学校の経営者が互いに横にらみで回答を遅らせ「全国第二位の一時金を支払っている」と徹底して押さえ込み攻撃を強めてきました。こうした中で金沢四校(城東、東部、北鉄、北中)の

もんじゅを廃炉へ!全国集会

脱原発社会の実現に向け奮闘しよう

十二月三日、「もんじゅを廃炉へ!」全国集会が、福井県敦賀市現地で開催されました。三・一一東日本大震災による福島原発事故を受け、これまで以上に原発の危険性が明らかになっていく中で初めての全国集会となり、ここ数年を倍する千三百人が結集しました。全国一般は評議会を先頭に、十一県より約百六十人が参加し、石川からは十三職場・三十四人が結集しました。

もんじゅを眼前にする白木海岸で集会を行い、その後ゲート前までデモ行進を行いました。午後からは敦



もんじゅゲート前で「廃炉にしろ」のシュプレヒコール

後、敦賀駅までのデモを行い、もんじゅの廃炉、志賀原発をはじめとする原発の再稼働反対を力強く訴えました。往復の道のりでは、全国一般石川のバス、県平和センターのバスなどに分乗し、学習を行いました。高速増殖炉「もんじゅ」は通常の原発以上に地震に弱いなど危険性が極めて高いこと、これまで一兆三千億円もの巨額の税金などが投入され、停止状態の今でもプラント維持のために一日五千五百万円も投じられていることなどを学習してきました。また危険で金喰いのもんじゅを動かすのは、電力確保という目的だけでなく、日本が核兵器保有能力を持つことも学習してきました。もんじゅで生み出されるプルトニウムは高純度でそのまま原爆の材料になるほど危険な物質であり、反核非核の国であるべき日本はこれを大量に保有しているのです。福島では原発事故によりいまだに帰郷、帰宅のめどさえ立たない多くの人たちが生み出され、放射能の恐怖に日々脅かされています。参加者からも「今年を全国集会最後の年にできるよように、もんじゅも含めて全ての原発をなくしていこう」という感想が出されていたように、私たちは何としてでも、原発の再稼働を許さず、原発のない社会を実現していくために奮闘するの

非正規労働者の生活と権利を守ろう

大同テクノ/闘争・

控訴審始まる

十二月十四日、大同テクノ闘争の控訴審の第一回が開催されました。大同テクノの仲間は、同じ職場同じ仕事をしているのに、子会社の派遣・請負労働者というだけで、賃金が親会社正社員の約六割というように劣悪な労働条件を強いられ、これを解決するために裁判闘争に取り組んでいます。

しかし親会社正社員としての雇用を求めた金沢地裁での一審は、八月三十日に判決が出ましたが、請求棄却の不当判決となりました。

それでも裁判で分会の仲間が証言台に立ち、職場の実態を明らかにしたことで、違法派遣・偽装請負の実態

は認めざるを得ないとところまで、判決では認めさせてきました。このことにふまえ、一審判決後、直ちに控訴し、現在、名古屋高等裁判所金沢支部に審理の場は移されました。

経営者は、総額人件費を大幅カットするために、非正規雇用をドンドン増やし、いまや三人に一人以上の割合にまで増大しています。

大同テクノ分会の闘いは、不安定雇用と超低賃金に苦しむ全国の派遣・請負そして子会社の労働者の先頭に立つ闘いです。

工場閉鎖反対・門前工場再開を求める門前サンケン支部の闘いととも、全職場の力で粘り強く支え、勝利をつかむまで闘いぬきましよう。

日本海観光バスの仲間が 新たに組合を結成!

を求めて闘っている。

「日本海観光バス分会」の新しい仲間を紹介します。

分会長 宮浦雅彦
副分会長 室井勝博
書記長 村岡治人

会社の不当労働行為を徹底的に追及

門前サンケン闘争・ 県労委で柳澤副社長を尋問

会社による労使協定をも無視した工場閉鎖の強行に

よって、門前サンケン支部の仲間たちは志賀工場、町野工場に分かれ困難な条件下で、歯を食いしばって闘い続けている。

十一月三十日、石川県労働委員会が開かれた不当労働行為(第二号)事件の第一回審問で、尾崎地本書記次長が証言した。

傍聴に駆けつけた多数の組合員の前で、柳澤副社長は、組合側弁護士との質問に対して、「二〇一〇年五月頃から団交に見込みがないと考えた」「工場閉鎖は私と浦上社長の二人だけで決めた」と証言し、団交無視・閉鎖ありきの姿勢が浮き彫りになった。「覚書に『合意』の文言があるが、協議と合意の違いは分かるか」との問いには、絶句した後、「すみません。分りません」と繰り返すのみだった。

次回、年明け二月七日に結審する。また県労委が不当命令を出した第一号事件は、組合が中央労働委員会に再審査を申し立て、年明け一月三十日に第一回調査の予定である。さらに異動の不当性と損害賠償を含めた金沢地裁七尾の裁判は、一月十三日に公判が開かれる。

志賀原発の再稼働を許すな!

500名の仲間と

「さよなら志賀原発七尾集会」 に決起する

せない」「志賀原発の再稼働を絶対に認めない」

直ちにデモ行進に出発、富山県平和フォーラムからも約百名の仲間が連帯して参加し、広く市民に脱原発を訴えた。当日は朝から雨や曇りが降りしきる大変な天候であったが、デモに参加するところにはスッキリと晴れ渡り、集会参加者の力強いシュプレヒコールは天高く響き渡った。

尾崎書記次長は、会社側弁護士による組合非難の尋問に対して、会社が「閉鎖ありき」で挙句に「覚書」を破棄した暴挙や、団体交渉の不誠実さについて、具体的に不当性を明らかにした。門前工場が閉鎖されなければ安心して働けた組合員の悔しさと怒りを代弁し、委員に力強く訴えた。

十二月二十日には第二回審問では、門前工場閉鎖を主導して進めてきた柳澤正幸副社長の尋問が行なわれた。

嘘八百を並べ立て、多くの組合員を退職に追い込んだ会社の責任を明らかにさせよう。地本の仲間の団結で、苦闘する門前サンケン支部の仲間を支援しよう。

仲間の思い

伝わる総会

青年女性部の第十回定期総会が十二月七日に開催されました。石川県平和運動センター青年・女性部幹事の林敬介さん(県教組青年部)に連帯のご挨拶を頂きました。

残念ながら、常任委員以外の参加者は少なかつたのですが、内容は大変充実したものでした。

また、門前サンケンの仲間のみなさんが、闘争報告をしてくださいました。今の自分の思いも入れている報告だったので、会場のみんなにしっかりと伝わったのではないのでしょうか。

そして、議事後半は、参加者全員が自分の職場報告をしてくださいました。そこでもそれぞれの思いも聞くことができました。

来年は、常任委員を選出していない職場にも働きかけ、青年女性部運動を活性化していきたいです。

志賀原発の再稼働ストップを掲げ、十二月十日、七尾市サンライフプラザに五百名の仲間が集結した。この集会は7・24金沢中央公園での三千人集会に続くもので、地本からは林ベニヤの仲間を中心に約五〇名が参加した。集会は福島現地から駆けつけた国分俊樹さん(福島県教組書記次長)の怒りに満ちた生々しい報告を受けて、参加者一同が「二度と原発事故を起こさ

せない」「志賀原発の再稼働を絶対に認めない」ことを誓い合った。集会後、直ちにデモ行進に出発、富山県平和フォーラムからも約百名の仲間が連帯して参加し、広く市民に脱原発を訴えた。当日は朝から雨や曇りが降りしきる大変な天候であったが、デモに参加するところにはスッキリと晴れ渡り、集会参加者の力強いシュプレヒコールは天高く響き渡った。